

技術開発テーマ名

[衛星光通信の実装を見据えた衛星バス及び光通信端末の開発及び製造に関するフィージビリティスタディ](#)

実施機関名（代表機関）

日本電気株式会社

研究代表者名

横田 祐介

技術開発課題の名称

光通信端末事業の商材国産化の実現と世界シェア獲得に向けた調査分析

評価の概要

公募要領等に表示されたステージゲートの観点に照らして、技術開発計画は想定通りに進捗しており、優れた成果が得られている、またはその見通しが得られていることから、技術開発を継続すべきである。詳細は下記のとおり。

- フィージビリティスタディとして、官民を含めたニーズ調査、入手可能な情報を抽出してトレードオフなどの検討を実施し、GEO-LEO市場向けの光通信端末開発を進めることが事業成立性として現実的で妥当との調査結果は、概ね適切にターゲット設定が行われたと評価する。
- また、公募要領を踏まえ、当該調査をベースに追加提案された要素技術評価は、先行着手すべき要素技術項目の識別、フライト品までの製品開発ロードマップを示している点等が高く評価され、ステージゲート評価後の技術開発計画についても妥当であると評価する。なお、要素技術評価は早期に着手すること。
- 光通信端末市場の進展はめざましく、今後、数年で大きな変革が生じる可能性もあるため、早期の成果創出とビジネス展開が必要であり、光通信端末の早期市場投入に期待する。

座長

(担当PO)

門脇 直人

国立研究開発法人情報通信研究機構 主席研究員

委員

甘木 大己

株式会社日本政策投資銀行 企業金融第2部 航空宇宙室 航空宇宙室長

委員

今井 良一

元JAXA理事（第一宇宙技術部門、第二宇宙技術部門、研究開発部門兼務）

委員

岡本 英二

名古屋工業大学 大学院工学研究科 工学専攻 教授

委員

久保田 孝

明治大学 理工学部 特任教授

委員

峰 正弥

一般社団法人測位航法学会 副会長

敬称略、座長を除き、委員は五十音順

利益相反マネジメント規程に則り、審査委員は、利益相反がある技術開発課題についての審査をしていない